

学習アドバイス - 現代社会

■ 全学統一入試（2月3日）

出題傾向

試験時間は60分、大問は4題、小問は34問である。大問数は昨年度と同じ、小問数は昨年度から7問減少した。

出題形式は四肢択一のマークシート方式であり、正誤判定問題、空欄補充問題、語句選択問題から構成されている。一部にやや細かな知識を問う問題もみられるが、難易度は総じて大学入学共通テストと比較してほぼ同水準といえるだろう。

2023年度入試の出題内容は以下の通りである。

1 現代社会分野（7問）

現代の西洋思想、近代の日本思想（和辻哲郎、丸山眞男）、近世の日本思想（荻生徂徠、朱子学）、日本社会の特徴（タテ社会、ホンネとタテマエ）

2 国際経済分野（10問）

貿易の分類、比較生産費説、保護貿易、経済学説、国際収支、変動為替相場制、日米貿易摩擦、産業の空洞化

3 政治分野（10問）

選挙の原則、小選挙区制、比例代表制、中選挙区制、ドント式、日本の選挙制度改革、衆議院の選挙制度、一票の格差

4 国際関係分野（7問）

米ソ冷戦（キューバ危機・アフガニスタン侵攻）、国家の三要素、国際法（ケロッグ・ブリアン条約）、国際連合、日本の外交、NGO（非政府組織）

■ 一般入試（2月7日）

出題傾向

試験時間は60分、大問は4問、小問は41問である。大問数は昨年度と同じ、小問数は昨年度から7問増加した。

出題形式は四肢択一のマークシート方式である（ただし、4に語群から選択する形式あり）。また、正誤判定問題、空欄補充問題、語句選択問題から構成されている。一部にやや細かな知識を問う問題もみられるが、難易度は総じて大学入学共通テストと比較してほぼ同水準といえるだろう。

2023年度入試の出題内容は以下の通りである。

1 現代社会分野（7問）

生命倫理、資源・エネルギー問題、情報化社会、近現代の西洋思想、国際社会、マイノリティの人権、宗教

2 経済分野（12問）

完全競争市場、需要曲線と供給曲線（曲線の形状・曲線のシフト・均衡価格の変化）、市場の失敗（寡占・公共財・外部経済・外部不経済・情報の非対称性）

3 政治分野（9問）

大日本帝国憲法、天皇の国事行為、憲法改正手続、法の下での平等、政教分離、人身の自由、新しい人権（プライバシー権・環境権）、人権条約

4 国際関係分野（13問）

対人地雷全面禁止条約（オタワ条約）、クラスター爆弾禁止条約（オスロ条約）、核拡散防止条約、軍縮 NGO（ICBL・ICAN）、世界の核保有国（北朝鮮・インド・パキスタン・イスラエル）

■ 一般入試（2月8日）

出題傾向

試験時間は60分、大問は4問、小問は42問である。大問数は昨年度と同じ、小問数は昨年度から8問増加した。

出題形式は四肢択一のマークシート方式である（ただし、4に語群から選択する形式あり）。また、正誤判定問題、空欄補充問題、語句選択問題から構成されている。一部にやや細かな知識を問う問題もみられるが、難易度は総じて大学入学共通テストと比較してほぼ同水準といえるだろう。

2023年度入試の出題内容は以下の通りである。

1 現代社会分野（7問）

生命倫理、資源・エネルギー問題、情報化社会、大衆社会、人口問題と少子高齢化社会、現代の西洋思想、宗教

2 経済分野（13問）

景気変動、財政投融资、日本の一般会計予算、租税（租税の割合・租税の種類・直間比率）、国債（建設公債・特例公債・公債依存度）、地方交付税交付金

3 政治分野（10問）

日本の三権分立制度、国会、参議院、内閣、裁判所、国会・内閣の権能、国会の弾劾裁判、裁判所の違憲審査

4 国際関係分野（12問）

イラン・イラク戦争、湾岸戦争、パレスチナ紛争、オスロ合意（パレスチナ暫定自治協定）

学習アドバイス（全学統一入試2月3日、一般入試2月7日、2月8日 共通）

出題形式は、各日程いずれも試験時間が60分、大問数が4問のマークシート方式である。小問数は日程により多少異なるものの標準的な分量といえる。ただし、各日程の大問1で

は、それぞれの選択肢が3～4行程度の長文の問題も出題されているので、選択肢を注意深く読んでいくことが求められる。

出題内容は、おおむね教科書に準拠した標準的なレベルの問題で構成されており、過度に細かな知識を問う問題は少ない。上記の選択肢が長文の問題も、ほとんどが基本的な知識を問う内容なので、文字の多さに惑わされず各選択肢の正誤を丹念に判断してもらいたい。

以上の傾向を踏まえて、普段の現代社会の学習に際しては、教科書を繰り返し読むことを通して基本事項の習得に努めてもらいたい。教科書の内容をしっかりと習得することができていれば、本学の入試問題のほとんどを正答することができるはずである。そのうえで、余裕があれば資料集や参考書なども活用すると良いだろう。

では、以下に分野ごとに出题頻度の高いテーマを挙げておきたい。

現代社会分野

現代社会分野は例年、各日程とも大問¹で出題されている。テーマとしては、生命倫理、資源・エネルギー問題、情報化社会、日本社会の特徴、近現代の西洋思想が最頻出であり、2023年度入試もいずれかの日程において出題されている。その他にも、地球環境問題、少子高齢化社会、青年期の課題、近世～近代の日本思想なども頻出なので注意が必要である。この分野は、例年出題されるテーマがかなり固定されているので、上記テーマについては必ず学習して十分な対策を立てておこう。また、現代社会分野では、選択肢のなかで時事的な事柄が問われることもよくあるので、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通じて話題となったニュースにも接するようにしておこう。

政治分野

政治分野は例年、各日程とも大問³で出題されている。内容としては、特定のテーマに偏ることなく満遍なく出題されているが、特に日本国憲法からの出題が中心となっており、2023年度入試も一般入試（2月7日）ではさまざまな人権（平等権・自由権・新しい人権）をテーマとして、一般入試（2月8日）では日本の統治機構（国会・内閣・裁判所）をテーマとして、それぞれ日本国憲法に関連する問題が数多く出題されている。また、全学統一入試（2月3日）では日本の選挙制度をテーマとした出題がみられた。普段の学習では日本国憲法の条文知識をしっかりと習得することが求められるとともに、民主主義の基本原則（法の支配・社会契約説など）、世界の政治体制（議院内閣制・大統領制など）に関する出題頻度も高いので事前の学習が必要である。

経済分野

経済分野は例年、各日程とも大問²で出題されている。経済分野は、経済学説と経済理論に関する分野、経済の歴史と現状に関する分野に大きく分けることができるが、本学では経済学説と経済理論に関する分野の出題頻度が比較的高い傾向にある。2023年度入試も一般入試（2月7日）において、市場メカニズム（需要曲線と供給曲線）に関する問題が数多く出題されている。経済学説と経済理論は、現代社会のなかでも特に理解が大事な分野

である。過去問などでこの分野の問題を間違えたときには、解説をしっかりと読んで学説やしくみを理解することを心掛けてほしい。また、全学統一入試（2月3日）では自由貿易体制の歴史、一般入試（2月8日）では日本の財政制度をテーマとした出題がみられた。なお、例年、各日程とも大問²の小問数が全体に占めるウェイトが大きいので、この分野の学習を疎かにして連鎖的に失点することがないように注意したい。

国際関係分野

国際関係分野は例年、各日程とも大問⁴で出題されている。国際関係分野は、国際政治分野と国際経済分野に分かれるが、2023年度入試は各日程とも大問⁴は国際政治分野から出題された。本学では例年、国際政治分野からの出題頻度が高く、2024年度も大問⁴で出題されることが予想されるので事前の対策は必須である。国際政治分野のなかでも、冷戦期の国際情勢、国際連合は最頻出のテーマなので、冷戦期の国際政治の流れや国際連合の主要機関については深い学習が求められる。また、国際社会（主権国家体制）の成立、冷戦後の地域紛争、国際機関の名称、軍備管理と軍縮条約も頻出のテーマとなっているのでしっかりと学習しておこう。なお、本年度の一般入試（2月7日・2月8日）では、文中の空欄に当てはまる国名とともに、その地図上の位置が問われていたので、地域紛争に登場する国家の名称や位置については、その都度地図帳などで確認しておこう。

繰り返しとなるが、本学の一般入試の問題は総じて教科書に準拠した内容である。したがって、日頃から教科書をしっかりと読み込み、その内容を習熟できていれば高得点を挙げることも十分可能である。

もう一点、現代社会の学力を伸ばす学習方法として、用語集（山川出版社『現代社会用語集』など）を手元に置いて積極的に活用することをお薦めする。現代社会も他の地歴の科目と同様、どうしても一定数の用語を覚えることは避けられない科目である。ただし、内容を理解せず丸暗記するだけではすぐに忘れてしまうので、見慣れない用語に出会ったときは用語集で調べる習慣を身に付けてもらいたい。用語集をこまめに調べるというのは一見地味なようでも、現代社会のさまざまな用語に対する理解度がぐっと深まるはずである。

現代社会とは文字通り、現代に関するさまざまな事柄（政治・経済・社会・国際情勢など）を学ぶ科目である。そのため、普段から国内や海外において話題となった出来事に関心を持つておくことは入試対策としても有効である。まずは興味ある分野からで構わないので、新聞やテレビ、インターネットなどを通じてニュースに関心を向けてみると良いだろう。

ここまで読んで頂いた本学の出題傾向や学習アドバイスを指針としつつ、これから入試当日まで焦らず継続的に学習を進めてもらいたい。最後に、皆さんが本学の現代社会を攻略して合格を勝ち取ることを祈っています。